

大学教職員に今、何が求められるのか

■講師

金子 元久（筑波大学 特命教授）

筑波大学特命教授、日本高等教育学会前会長、中央教育審議会専門委員、東京大学名誉教授、東京大学教育学部卒（1972年）。同大学院修士課程修了・教育学修士（1974年）、シカゴ大学Ph.D.（1985年）。東京大学大学院教育学研究科長・教育学部長等を歴任。専門は高等教育論、比較教育学、教育経済学。主著は『大学教育の再構築』玉川大学出版会 2013年等。

山口 裕之（徳島大学 総合科学部 教授）

1999年東京大学人文社会系研究科単位取得退学。2002年博士（文学）取得。主要著書『「大学改革」という病』（明石書店）、『人をつなぐ対話の技術』（日本実業出版社）、『コピペと言われないレポートの書き方教室』（新曜社）など。

■指定討論者

小林 直人（愛媛大学 学長特別補佐、教育・学生支援機構 教育企画室長、医学部 総合医学教育センター長 教授）

昭和63年3月東京大学医学部医学科卒、平成7年東京大学にて博士（医学）の学位取得。平成17年度より愛媛大学医学部教授、平成21年度より愛媛大学教育・学生支援機構副機構長と教育企画室長を兼任。教育担当理事（教育・学生支援機構長）のもと、大学全体のFDをミクロ・レベルからマクロ・レベルまで幅広く担当。平成27年度より愛媛大学学長特別補佐（教育企画、能力開発）を兼任。

司会 高橋 尚志（香川大学 大学教育基盤センター長）

■プログラム概要

29年度より、SD（Staff Development）が義務化された。平成20年度のFD（Faculty Development）義務化から早10年、大学教職員の能力開発は、確実にその対象と内容を拡充しつつある。他方、法人化以降、こうした大学改革が矢継ぎ早に行われることによって、大学教職員が疲弊してきたのも事実であろう。はたして、大学教職員に今、何が求められているのか。また、それをふまえて、我々はどのように行動すればよいのだろうか。大学教職員の能力開発を考えるにあたっての核ともいえるこの問いを、本シンポジウムでは考えたい。奇しくも、平成30年度はSPOD設立から10年という節目の年にあたる。その節目の年に、「教職員のミニマムエッセンシャルズを考える」をSPODフォーラム2018の全体テーマとして掲げ、シンポジウムでは参加者の皆様と一緒にSPODの10年を振り返り、これからの10年を考える。本シンポジウムによって、四国内外の大学等における教職員の能力開発に寄与したい。

■主な受講対象

教職員（SPODフォーラム2018に参加される全ての方）

■日時・場所

日時：平成30年8月30日（木）15：30～18：00

場所：香川大学幸町北キャンパス